

小規模拠点のネットワークによる子育てにやさしいまちづくり

井手町
井手・多賀地区

事業の概要・背景

【概要】

○地域の事業者や子育てサークルなどの各種団体と連携しながら、子育て支援センター等の子育て世帯が利用する施設の機能強化に取り組む。
生活に密着する地元団体と連携した子育て支援の取組に、連携する大学・学生の外部の視点を組み合わせ、多様な子育て支援の枠組みを町内で展開することで、小規模な拠点同士の連携によるネットワークの構築及び地域コミュニティと子育て世帯の関係の強化により、町全体として子育てしやすいまちの実現を目指す。

【背景】

○買い物(JA)、子育て支援センター、公園等の施設が点在しており、子育て世帯等の集まる拠点がいないため各拠点の連携による機能の拡充や更なる展開が必要である。
○子育て支援の核となる子育て支援センターについては、利用経験がない方にとっては「敷居が高く利用し難い」との声もあり、すべての子育て世帯の方が子育てに関する不安を解消できるよう、施設の利活用を促すとともに、地域が一体となった子育て支援の仕組みづくりが求められる。

主な事業

- ◇: 交付対象事業
 - ◆: 関連事業
- ◇地域連携交流促進事業
◆大学連携事業 等

成果指標

- コミュニティづくり等の取組参加者数
- 新たに設立された子育て世代を含む地域団体数

令和2年(基準値)	令和7年(目標値)
0人	360人
0団体	2団体

エリア一体で取り組むポイント

ポイント

生活に密着する地元団体と連携した子育て支援に大学・学生の外部の視点を組み合わせ、子育て世帯と地域内の幅広い住民との交流を深めるとともに、様々な世代の方にとって、より暮らしやすいまちを実現する点。

- 多賀地区では、親子がくつろげる田園エリアとして、親子向けにJAと連携した野菜や果物の苗植え体験による交流や体験を行い、社福レストラン庵樹では、お母さん等に向けて子育ての合間にリフレッシュできるヨガなどを実施する。
- 井手地区では、中核である子育て支援センターでおもちゃ図書館事業を行って気軽に来所できる機会を増やし利用増を図る。
- これまで培われた京都産業大学との連携を活かし、コミュニティスペースむすび家ideを連携の中核拠点と位置付けるとともに、同拠点で学生の視点を活かした子育て世帯向けのイベントを行い多世代交流を促進する。さらに、両地区の取組にも大学・学生の視点を取り入れ、町内の資源と組み合わせる相乗効果を図ることにより、拠点のネットワークを活かし「井手町で子育てしたい」と思えるまちづくりを進める。

